

令和5年度 第57回 中学生の「税についての作文」

東京税理士会町田支部長賞

『税金の主役と良い暮らし』

町田市立成瀬台中学校 3学年 浮家 いつき

私が中学生になってから学んだ税のことが二つあります。それは、税金はマイナスなものではなく、自分たちの未来に投資をしていること。そして税金の主役は私たちであることです。

私は、中学校に入学する前からスマートフォンを持っていました。SNSで見聞きした税に関する意見では、増税に対する反対だったり税の種類が多いなどのマイナスな意見が多かったことが印象に残っています。しかし中学生になって租税教室、社会科の歴史や公民を勉強している中でこれがいかに偏った意見であることに気づきました。税金の使い道を決めるのは国会で国会議員が決めていきます。ならば、国会議員を決めるのは誰か。現在日本では、国民である十八歳以上の男女が選挙権を持っており、成人した国民全員に選挙権が与えられています。つまり、選挙という道を通じて税金の使い道を決めているのは私たちなのです。そこで、私たちは主役である意識をもち、日本の未来に関わっていくことが大切だと思います。二つ目は、私たちの生活は税金で成り立っていることです。皆、生まれてから一度は病院に行ったことがあるでしょう。病院を受診した際の医療費は、助成制度のため負担がより少なくて済みます。新型コロナウイルスが流行際のワクチン接種も私たちは無償で接種することができました。他にも生

活に欠かせないゴミ収集、私たちの通っている公立の小中学校は授業料や教材料等がかかりません。これも全て税金によって支えられているのです。当たり前に生活に取り入れられている公衆トイレや福祉、そして老後に深く関係する年金。これらの社会保障は生活への安心感を与えたり所得格差を解消する役割があります。また、税金はすべての人から公平に集めるために多くの種類があるなど全ての人が誰かのために貢献しているといえます。では、なぜSNSではマイナスな意見が多かったのでしょうか。それは、税金の使い道について理解している人が少ないからだと考えました。税金による良い暮らしが当たり前となっている現状で、社会保障がなくなってしまうたらどうなるのか一人一人が理解し、考えていくことや税金が何に使われているのか正しい情報を得ることが大切だと思います。

このように、私は中学生になって税金の主役は私たちであること。税金によって生まれる良い暮らしがあることを学びました。私が大人になったときには、この当たり前前の暮らしが守れるように社会に還元していきたいと思います。